

3. 今後の行政のあり方について

(1) 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて

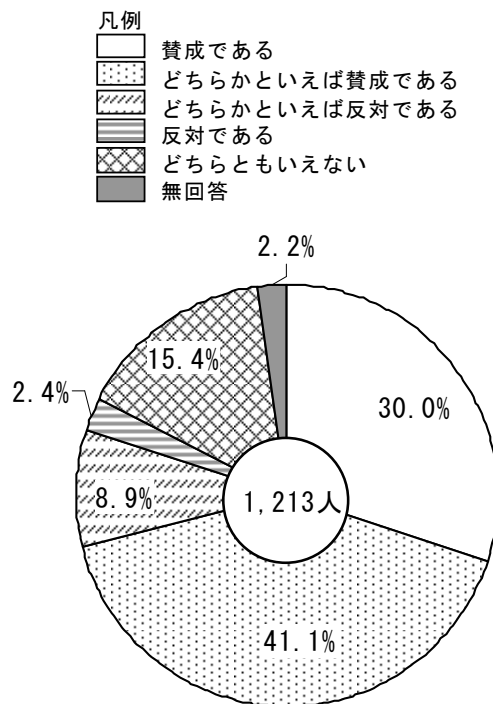
問 17 あなたは「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて、どのように考えますか。あなたの考えに一番近いものを1つ選んでください。

〔回答者数=1,213〕

| | |
|-----------------|-------|
| 1 賛成である | 30.0% |
| 2 どちらかといえば賛成である | 41.1% |
| 3 どちらかといえば反対である | 8.9% |
| 4 反対である | 2.4% |
| 5 どちらともいえない | 15.4% |
| (無回答) | 2.2% |

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについては、「賛成である」は30.0%であるが、これに「どちらかといえば賛成である」を合わせると、【賛成】が71.1%と7割を超える。一方、「反対である」(2.4%)に、「どちらかといえば反対である」(8.9%)を合わせた【反対】の割合は11.3%となっている。

〈 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて 〉



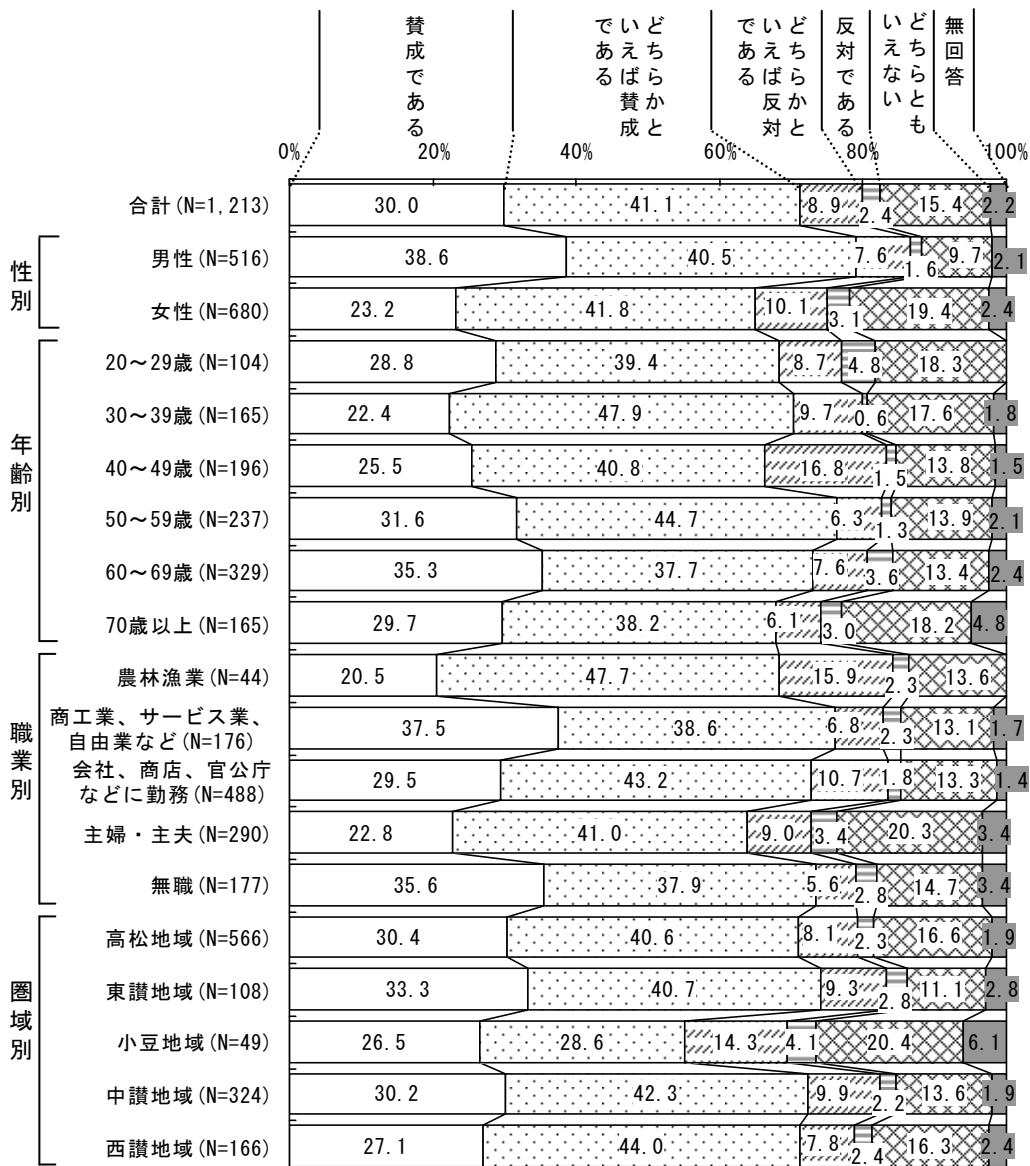
性別にみると、【賛成】は、『男性』79.1%、『女性』65.0%、【反対】は、『男性』9.2%、『女性』13.2%となっている。

年齢別にみると、いずれも【賛成】は6割を超え、なかでも『50～59歳』が76.3%と最も高いが、「賛成である」だけでみると、『60～69歳』が35.3%と最も高い割合となっている。

職業別にみると、【賛成】は、『商工業、サービス業、自由業など』が76.1%と最も高く、次いで『無職』の73.5%、『会社、商店、官公庁などに勤務』の72.7%などとなっている。

圏域別にみると、【賛成】は、『東讃地域』が74.0%と最も高く、これに『中讃地域』が72.5%で続いている。

〔 性別、年齢別、職業別、圏域別、「地方分権」により、国から
地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて 〕



(2) 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに賛成である
と考える理由

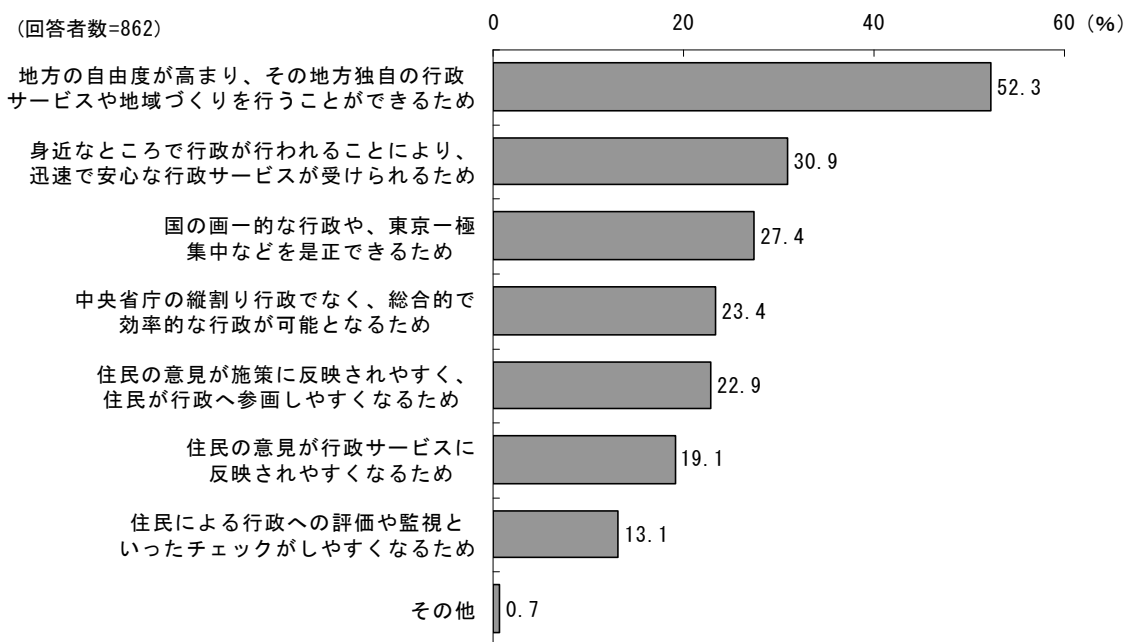
問 17 付問 1 (問 17 で「1 賛成である」または「2 どちらかといえば賛成である」と回答された方におたずねします。) 賛成であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

〔回答者数=862〕

| | |
|---|-------|
| 1 地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるため | 52.3% |
| 2 身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心な行政サービスが受けられるため | 30.9% |
| 3 国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるため | 27.4% |
| 4 中央省庁の縦割り行政でなく、総合的で効率的な行政が可能となるため | 23.4% |
| 5 住民の意見が施策に反映されやすく、住民が行政へ参画しやすくなるため | 22.9% |
| 6 住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるため | 19.1% |
| 7 住民による行政への評価や監視といったチェックがしやすくなるため | 13.1% |
| 8 その他 | 0.7% |

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに賛成であると考えられる理由については、「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるため」が 52.3%と半数を超え最も高く、次いで、「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心な行政サービスが受けられるため」が 30.9%、「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるため」が 27.4%、「中央省庁の縦割り行政でなく、総合的で効率的な行政が可能となるため」が 23.4%などとなっている。

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や
税財源を移すことに賛成であると考えられる理由



性別にみると、男女とも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるため」が半数を超え最も高く、次いで、『男性』は「中央省庁の縦割り行政でなく、総合的で効率的な行政が可能となるため」、『女性』は「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心な行政サービスが受けられるため」となっている。

年齢別にみると、いずれも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるため」が最も高く、これに『20～29歳』では「住民の意見が施策に反映されやすく、住民が行政へ参画しやすくなるため」、『30～39歳』から『50～59歳』、『70歳以上』では「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心な行政サービスが受けられるため」、『60～69歳』では「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるため」が続いている。

職業別にみると、いずれも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるため」が最も高く、次いで、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心な行政サービスが受けられるため」、『主婦・主夫』では「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるため」、『農林漁業』では同率で「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるため」と「住民の意見が施策に反映されやすく、住民が行政へ参画しやすくなるため」となっている。

圏域別にみると、どの圏域も「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるため」が最も高く、これに『高松地域』、『小豆地域』、『中讃地域』、『西讃地域』では「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心な行政サービスが受けられるため」、『東讃地域』では「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるため」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、「地方分権」により、国から地方
(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに賛成であるとする理由

(単位：%)

| 区 分 | | 回答者数 (人) | 地方の自由度が高まり、その地 方独自の行政サービスや地 域づく | 身近なところで行政が行われ ることにより、迅速な行政 | 国の画一的な行政や、東京一極 集中などを是正できるため | 総合的な縦割り行政が可 能となるため | 住民の意見が行政へ反映しやす くなるため | 住民の意見が行政サービスに反 映されやすくなるため | 住民による行政への評価や監視 のため | その他 |
|-----|---------------------|-------------|---------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------|-------------------------|------------------------------|-----------------------|-----|
| 合 計 | | 862 | 52.3 | 30.9 | 27.4 | 23.4 | 22.9 | 19.1 | 13.1 | 0.7 |
| 性別 | 男性 | 408 | 51.0 | 27.5 | 27.2 | 27.7 | 22.5 | 16.4 | 15.4 | 1.0 |
| | 女性 | 442 | 53.6 | 33.9 | 27.4 | 19.9 | 23.1 | 21.7 | 11.3 | 0.5 |
| 年齢別 | 20～29歳 | 71 | 49.3 | 25.4 | 28.2 | 16.9 | 29.6 | 32.4 | 15.5 | 1.4 |
| | 30～39歳 | 116 | 56.0 | 27.6 | 22.4 | 19.0 | 23.3 | 25.9 | 13.8 | 2.6 |
| | 40～49歳 | 130 | 56.2 | 30.0 | 22.3 | 21.5 | 25.4 | 20.0 | 13.1 | 0.0 |
| | 50～59歳 | 181 | 53.0 | 34.8 | 26.5 | 22.7 | 21.0 | 19.3 | 14.4 | 0.6 |
| | 60～69歳 | 240 | 48.8 | 29.2 | 30.4 | 29.2 | 22.5 | 14.6 | 14.2 | 0.0 |
| | 70歳以上 | 112 | 52.7 | 35.7 | 32.1 | 25.0 | 18.8 | 12.5 | 8.0 | 0.9 |
| 職業別 | 農林漁業 | 30 | 56.7 | 23.3 | 26.7 | 23.3 | 26.7 | 10.0 | 16.7 | 0.0 |
| | 商工業、サービス業、 自由業など | 134 | 45.5 | 37.3 | 29.9 | 13.4 | 26.9 | 21.6 | 14.2 | 0.0 |
| | 会社、商店、官公庁 などに勤務 | 355 | 54.6 | 29.3 | 23.1 | 26.8 | 21.7 | 21.7 | 13.5 | 0.8 |
| | 主婦・主夫 | 185 | 55.1 | 27.6 | 29.2 | 25.9 | 22.2 | 17.3 | 12.4 | 1.1 |
| | 無職 | 130 | 46.9 | 35.4 | 33.8 | 22.3 | 20.8 | 16.2 | 11.5 | 0.8 |
| 圏域別 | 高松地域 | 402 | 55.2 | 30.1 | 27.6 | 24.4 | 22.1 | 16.9 | 12.2 | 0.7 |
| | 東讃地域 | 80 | 51.3 | 27.5 | 35.0 | 17.5 | 16.3 | 26.3 | 20.0 | 0.0 |
| | 小豆地域 | 27 | 48.1 | 40.7 | 14.8 | 25.9 | 33.3 | 18.5 | 11.1 | 0.0 |
| | 中讃地域 | 235 | 49.4 | 32.3 | 28.1 | 21.7 | 25.1 | 18.3 | 14.9 | 0.9 |
| | 西讃地域 | 118 | 50.0 | 30.5 | 22.9 | 27.1 | 22.9 | 23.7 | 8.5 | 0.8 |

(3) 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに反対である
と考える理由

問 17 付問 2 (問 17 で「3 どちらかといえば反対である」または「4 反対である」と
回答された方におたずねします。) 反対であるとお考えになる理由は何ですか。
あなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

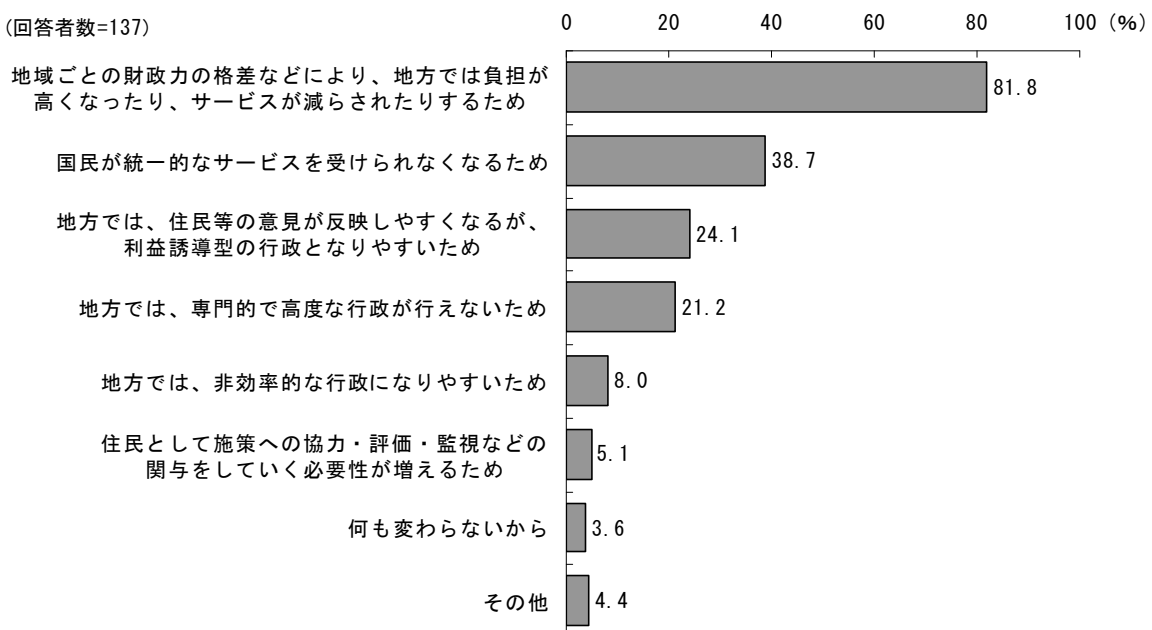
〔回答者数=137〕

| | |
|--|-------|
| 1 地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、 サービスが減らされたりするため | 81.8% |
| 2 国民が統一的なサービスを受けられなくなるため | 38.7% |
| 3 地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政と なりやすいため | 24.1% |
| 4 地方では、専門的で高度な行政が行えないため | 21.2% |
| 5 地方では、非効率的な行政になりやすいため | 8.0% |
| 6 住民として施策への協力・評価・監視などの関与をしていく必要性が 増えるため | 5.1% |
| 7 何も変わらないから | 3.6% |
| 8 その他 | 4.4% |

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに反対であると
考える理由については、「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サ
ービスが減らされたりするため」が81.8%と8割を超え最も高く、これに「国民が統一的なサー
ビスを受けられなくなるため」が38.7%、「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利
益誘導型の行政となりやすいため」が24.1%、「地方では、専門的で高度な行政が行えないため」
が21.2%で続いている。

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や
税財源を移すことに反対であるとする理由

(回答者数=137)



性別にみると、男女とも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするため」が8割を超え最も高く、次いで、『男性』は「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいため」、『女性』は「国民が統一的なサービスを受けられなくなるため」となっている。

年齢別にみると、いずれも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするため」が最も高く、『50～59歳』では94.4%と9割を超えている。次いで、『20～29歳』では「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいため」、『30～39歳』から『60～69歳』では「国民が統一的なサービスを受けられなくなるため」、『70歳以上』では同率で「国民が統一的なサービスを受けられなくなるため」と「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいため」となっている。

職業別にみると、いずれも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするため」が最も高く、これに『農林漁業』では同率で「国民が統一的なサービスを受けられなくなるため」、「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいため」、「地方では、専門的で高度な行政が行えないため」、「地方では、非効率的な行政になりやすいため」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「国民が統一的なサービスを受けられなくなるため」が、『無職』では「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいため」が続いている。

圏域別にみると、どの圏域も「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするため」が最も高く、次いで、「国民が統一的なサービスを受けられなくなるため」となっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、「地方分権」により、国から地方
(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに反対であるとする理由

(単位：%)

| 区 分 | | 回答者数 (人) | 地域ごとの財政力の格差などにより、サービスが減少されたりするため | 国民が統一的なサービスを受けられなくなるため | 地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいため | 地方では、専門的で高度な行政が行えないため | 地方では、非効率的な行政になりやすいため | 住民としての施策への協力・評価・監視などの関与をしていく必要性が増えるため | 何も変わらないから | その他 |
|-----|-----------------|-------------|----------------------------------|------------------------|--|-----------------------|----------------------|---------------------------------------|-----------|------|
| 合 計 | | 137 | 81.8 | 38.7 | 24.1 | 21.2 | 8.0 | 5.1 | 3.6 | 4.4 |
| 性別 | 男性 | 47 | 83.0 | 29.8 | 40.4 | 12.8 | 6.4 | 4.3 | 2.1 | 10.6 |
| | 女性 | 90 | 81.1 | 43.3 | 15.6 | 25.6 | 8.9 | 5.6 | 4.4 | 1.1 |
| 年齢別 | 20～29歳 | 14 | 78.6 | 7.1 | 28.6 | 21.4 | 14.3 | 7.1 | 14.3 | 14.3 |
| | 30～39歳 | 17 | 70.6 | 41.2 | 23.5 | 35.3 | 5.9 | 5.9 | 5.9 | 5.9 |
| | 40～49歳 | 36 | 88.9 | 47.2 | 22.2 | 11.1 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 2.8 |
| | 50～59歳 | 18 | 94.4 | 44.4 | 22.2 | 11.1 | 5.6 | 0.0 | 0.0 | 5.6 |
| | 60～69歳 | 37 | 73.0 | 43.2 | 24.3 | 29.7 | 8.1 | 8.1 | 2.7 | 2.7 |
| | 70歳以上 | 15 | 86.7 | 26.7 | 26.7 | 20.0 | 6.7 | 13.3 | 6.7 | 0.0 |
| 職業別 | 農林漁業 | 8 | 75.0 | 25.0 | 25.0 | 25.0 | 25.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 |
| | 商工業、サービス業、自由業など | 16 | 81.3 | 50.0 | 31.3 | 18.8 | 6.3 | 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 会社、商店、官公庁などに勤務 | 61 | 86.9 | 41.0 | 24.6 | 13.1 | 4.9 | 1.6 | 4.9 | 6.6 |
| | 主婦・主夫 | 36 | 83.3 | 41.7 | 11.1 | 38.9 | 5.6 | 5.6 | 5.6 | 0.0 |
| | 無職 | 15 | 60.0 | 20.0 | 40.0 | 13.3 | 20.0 | 13.3 | 0.0 | 13.3 |
| 圏域別 | 高松地域 | 59 | 79.7 | 40.7 | 20.3 | 20.3 | 8.5 | 6.8 | 1.7 | 8.5 |
| | 東讃地域 | 13 | 84.6 | 30.8 | 23.1 | 23.1 | 15.4 | 0.0 | 7.7 | 0.0 |
| | 小豆地域 | 9 | 88.9 | 55.6 | 22.2 | 11.1 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 中讃地域 | 39 | 82.1 | 33.3 | 28.2 | 23.1 | 7.7 | 7.7 | 7.7 | 0.0 |
| | 西讃地域 | 17 | 82.4 | 41.2 | 29.4 | 23.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.9 |

(4) 道州制について

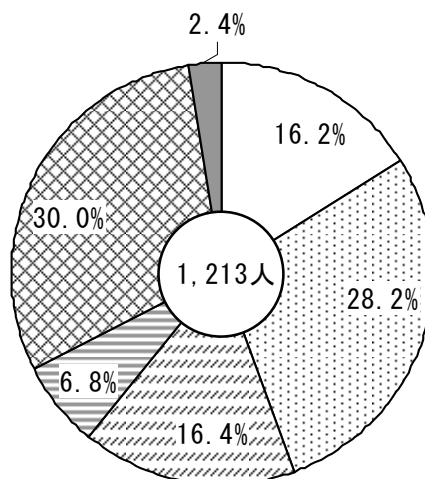
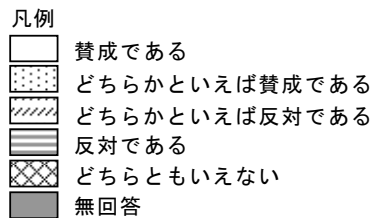
問 18 あなたは、道州制についてどう考えますか。あなたの考えに一番近いものを1つ選んでください。

[回答者数=1,213]

| | |
|-----------------|-------|
| 1 賛成である | 16.2% |
| 2 どちらかといえば賛成である | 28.2% |
| 3 どちらかといえば反対である | 16.4% |
| 4 反対である | 6.8% |
| 5 どちらともいえない | 30.0% |
| (無回答) | 2.4% |

道州制については、「どちらともいえない」が30.0%と最も高い割合となっている。次いで、「どちらかといえば賛成である」が28.2%で、これに「賛成である」(16.2%)を合わせると、【賛成】が44.4%と4割を超え、「反対である」(6.8%)と「どちらかといえば反対である」(16.4%)を合わせた【反対】は23.2%となっている。

〈 道州制について 〉



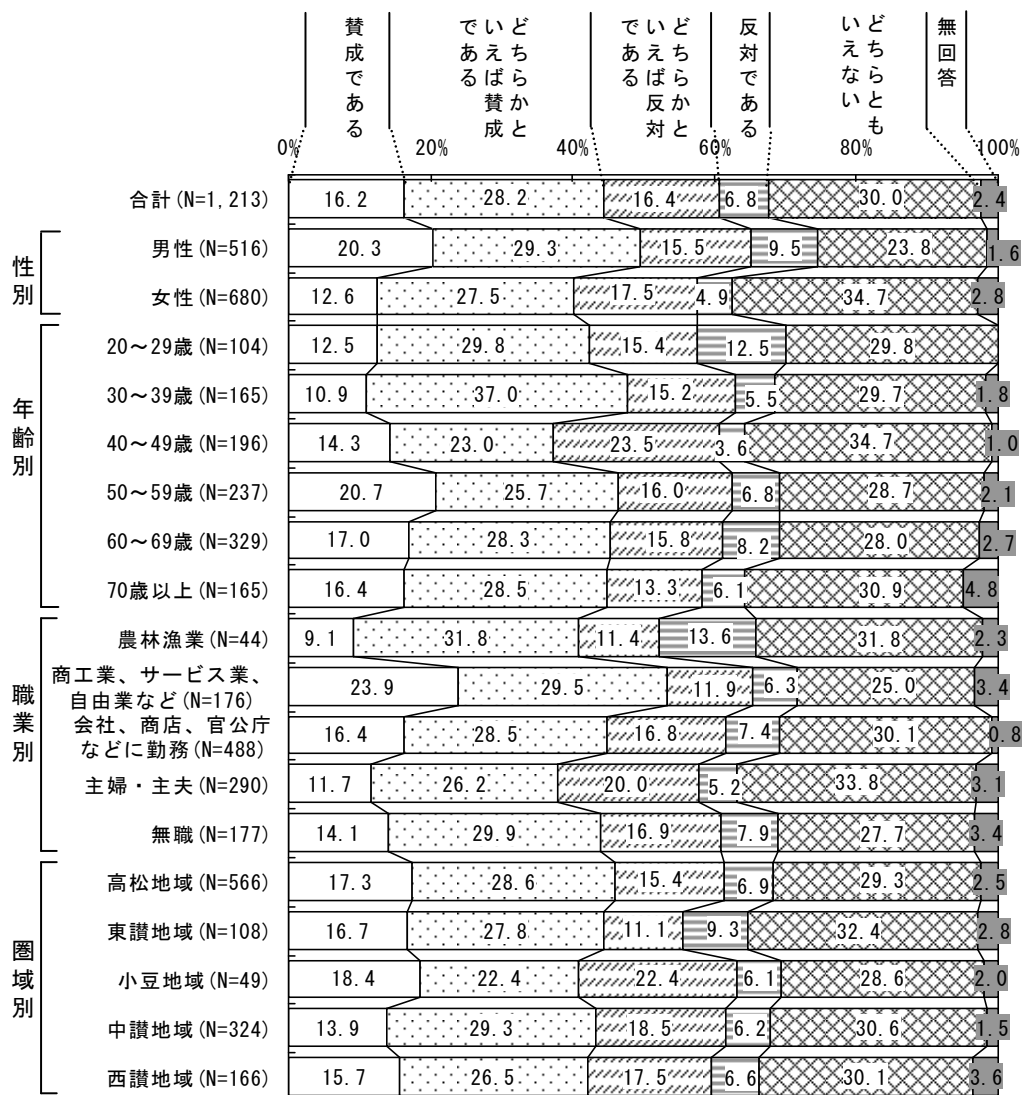
性別にみると、『男性』は「どちらかといえば賛成である」、『女性』は「どちらともいえない」が最も高い割合になっている。【賛成】【反対】でみると、男女とも【賛成】が4割台で、【反対】の2割台を上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』では同率で「どちらかといえば賛成である」と「どちらともいえない」が、『30～39歳』、『60～69歳』では「どちらかといえば賛成である」が、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「どちらともいえない」が最も高い。【賛成】【反対】でみると、いずれも【反対】より【賛成】が高く、『30～39歳』では47.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では同率で「どちらかといえば賛成である」と「どちらともいえない」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「どちらかといえば賛成である」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「どちらともいえない」が最も高い割合となっている。【賛成】【反対】でみると、いずれも【反対】より【賛成】が高く、『商工業、サービス業、自由業など』では53.4%と半数を超えている。

圏域別にみると、どの圏域も「どちらともいえない」が最も高い。【賛成】【反対】でみると、いずれも【賛成】が4割台で、【反対】より高くなっている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別 道州制について 〉



(5) 道州制について、賛成であるとする理由

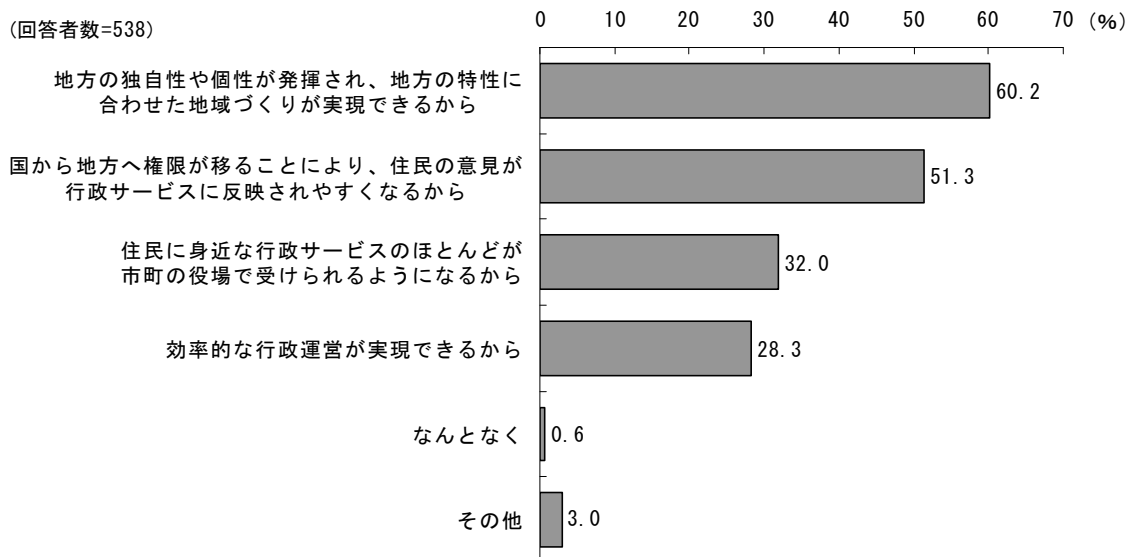
問 18 付問 1 (問 18 で「1 賛成である」または「2 どちらかといえば賛成である」と回答された方におたずねします。) 賛成であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

[回答者数=538]

| | | |
|---|---|-------|
| 1 | 地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから | 60.2% |
| 2 | 国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから | 51.3% |
| 3 | 住民に身近な行政サービスのほとんどが市町の役場で受けられるようになるから | 32.0% |
| 4 | 効率的な行政運営が実現できるから | 28.3% |
| 5 | なんとなく | 0.6% |
| 6 | その他 | 3.0% |

道州制について、賛成であるとする理由をみると、「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が 60.2%と6割を超え最も高く、次いで、「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 51.3%、「住民に身近な行政サービスのほとんどが市町の役場で受けられるようになるから」が 32.0%などとなっている。

〈 道州制について、賛成であるとする理由 〉



性別にみると、男女とも「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が最も高く、次いで「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」となっている。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」、30 歳以上では「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が最も高く、『農林漁業』では 72.2%と 7 割を超えている。

圏域別にみると、どの圏域も「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が最も高く、『小豆地域』では 75.0%と 7 割を超えている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別 道州制について、賛成であるとする理由 〉

(単位：%)

| 区 分 | 回答者数 (人) | 地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから | 住民の意見が行政サービスに反映され、国から地方へ権限が移ることにより、 | が市民の身近な行政サービスのように | 効率的な行政運営が実現できるから | なんとなく | その他 |
|-----------------|-------------|--|-------------------------------------|-------------------|------------------|-------|-----|
| 合 計 | 538 | 60.2 | 51.3 | 32.0 | 28.3 | 0.6 | 3.0 |
| 性別 | | | | | | | |
| 男性 | 256 | 63.3 | 50.8 | 23.8 | 31.6 | 0.4 | 4.7 |
| 女性 | 273 | 56.8 | 51.6 | 39.9 | 25.6 | 0.7 | 1.5 |
| 年齢別 | | | | | | | |
| 20～29歳 | 44 | 54.5 | 61.4 | 34.1 | 13.6 | 0.0 | 6.8 |
| 30～39歳 | 79 | 55.7 | 48.1 | 30.4 | 32.9 | 0.0 | 5.1 |
| 40～49歳 | 73 | 57.5 | 50.7 | 34.2 | 23.3 | 0.0 | 2.7 |
| 50～59歳 | 110 | 60.9 | 41.8 | 36.4 | 30.9 | 1.8 | 3.6 |
| 60～69歳 | 149 | 61.7 | 57.0 | 24.2 | 33.6 | 0.7 | 1.3 |
| 70歳以上 | 74 | 64.9 | 51.4 | 40.5 | 24.3 | 0.0 | 1.4 |
| 職業別 | | | | | | | |
| 農林漁業 | 18 | 72.2 | 55.6 | 16.7 | 33.3 | 0.0 | 0.0 |
| 商工業、サービス業、自由業など | 94 | 60.6 | 45.7 | 38.3 | 27.7 | 1.1 | 4.3 |
| 会社、商店、官公庁などに勤務 | 219 | 59.4 | 50.7 | 27.4 | 31.1 | 0.5 | 3.2 |
| 主婦・主夫 | 110 | 56.4 | 54.5 | 40.0 | 25.5 | 0.0 | 1.8 |
| 無職 | 78 | 62.8 | 50.0 | 30.8 | 26.9 | 1.3 | 3.8 |
| 圏域別 | | | | | | | |
| 高松地域 | 260 | 61.5 | 52.7 | 33.8 | 22.7 | 0.8 | 3.8 |
| 東讃地域 | 48 | 58.3 | 54.2 | 33.3 | 33.3 | 0.0 | 2.1 |
| 小豆地域 | 20 | 75.0 | 50.0 | 25.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| 中讃地域 | 140 | 57.1 | 49.3 | 30.0 | 34.3 | 0.7 | 2.9 |
| 西讃地域 | 70 | 58.6 | 48.6 | 30.0 | 35.7 | 0.0 | 1.4 |

(6) 道州制について、反対であるとする理由

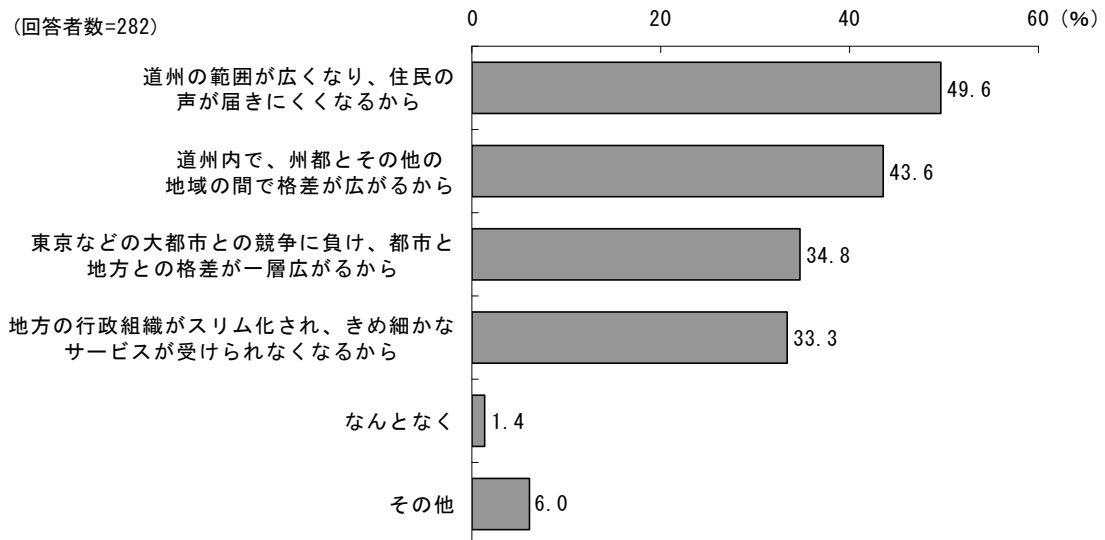
問 18 付問 2 (問 18 で「3 どちらかといえば反対である」または「4 反対である」と回答された方におたずねします。) 反対であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

[回答者数=282]

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 1 道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから | 49.6% |
| 2 道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから | 43.6% |
| 3 東京などの大都市との競争に負け、都市と地方との格差が一層広がるから | 34.8% |
| 4 地方の行政組織がスリム化され、きめ細かなサービスが受けられなくなるから | 33.3% |
| 5 なんとなく | 1.4% |
| 6 その他 | 6.0% |

道州制について、反対であるとする理由をみると、「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が 49.6%と半数近くを占め最も高く、次いで、「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が 43.6%、「東京などの大都市との競争に負け、都市と地方との格差が一層広がるから」が 34.8%などとなっている。

〈 道州制について、反対であるとする理由 〉



性別にみると、男女とも「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が最も高く、次いで、「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」となっている。

年齢別にみると、『20～29歳』から『40～49歳』では「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が、50歳以上では「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が最も高い比率となっている。

職業別にみると、『農林漁業』では同率で「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」と「東京などの大都市との競争に負け、都市と地方との格差が一層広がるから」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』、『無職』では「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松地域』では同率で「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」と「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が、『東讃地域』、『中讃地域』、『西讃地域』では「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が、『小豆地域』では「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が最も高く、「道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」については、『東讃地域』が68.2%と7割近くを占め、そのほかの圏域より高い比率となっている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別 道州制について、反対であると考え理由 〉

(単位：%)

| 区 分 | | 回答者数 (人) | 道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから | 道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから | 東京などの大都市との競争に負け、都市と地方との格差が一層広がるから | 地方行政の組織が受けきれなくなるから | なんとなく | その他 |
|-----|-----------------|-------------|---------------------------|---------------------------|-----------------------------------|--------------------|-------|------|
| 合 計 | | 282 | 49.6 | 43.6 | 34.8 | 33.3 | 1.4 | 6.0 |
| 性別 | 男性 | 129 | 50.4 | 42.6 | 29.5 | 32.6 | 3.1 | 7.0 |
| | 女性 | 152 | 49.3 | 44.1 | 38.8 | 34.2 | 0.0 | 5.3 |
| 年齢別 | 20～29歳 | 29 | 31.0 | 48.3 | 41.4 | 20.7 | 10.3 | 10.3 |
| | 30～39歳 | 34 | 35.3 | 41.2 | 38.2 | 20.6 | 0.0 | 20.6 |
| | 40～49歳 | 53 | 43.4 | 54.7 | 34.0 | 32.1 | 0.0 | 3.8 |
| | 50～59歳 | 54 | 57.4 | 33.3 | 31.5 | 44.4 | 0.0 | 5.6 |
| | 60～69歳 | 79 | 58.2 | 48.1 | 29.1 | 30.4 | 1.3 | 2.5 |
| | 70歳以上 | 32 | 59.4 | 28.1 | 43.8 | 50.0 | 0.0 | 0.0 |
| 職業別 | 農林漁業 | 11 | 27.3 | 45.5 | 45.5 | 36.4 | 0.0 | 0.0 |
| | 商工業、サービス業、自由業など | 32 | 43.8 | 40.6 | 31.3 | 34.4 | 0.0 | 9.4 |
| | 会社、商店、官公庁などに勤務 | 118 | 47.5 | 44.1 | 32.2 | 30.5 | 0.8 | 8.5 |
| | 主婦・主夫 | 73 | 56.2 | 45.2 | 37.0 | 41.1 | 0.0 | 1.4 |
| | 無職 | 44 | 52.3 | 43.2 | 38.6 | 22.7 | 6.8 | 6.8 |
| 圏域別 | 高松地域 | 126 | 48.4 | 48.4 | 41.3 | 27.8 | 1.6 | 5.6 |
| | 東讃地域 | 22 | 68.2 | 40.9 | 22.7 | 40.9 | 0.0 | 9.1 |
| | 小豆地域 | 14 | 21.4 | 57.1 | 21.4 | 28.6 | 7.1 | 14.3 |
| | 中讃地域 | 80 | 50.0 | 37.5 | 31.3 | 40.0 | 0.0 | 5.0 |
| | 西讃地域 | 40 | 52.5 | 37.5 | 32.5 | 35.0 | 2.5 | 5.0 |

(7) 道州制について、どちらともいえないと考える理由

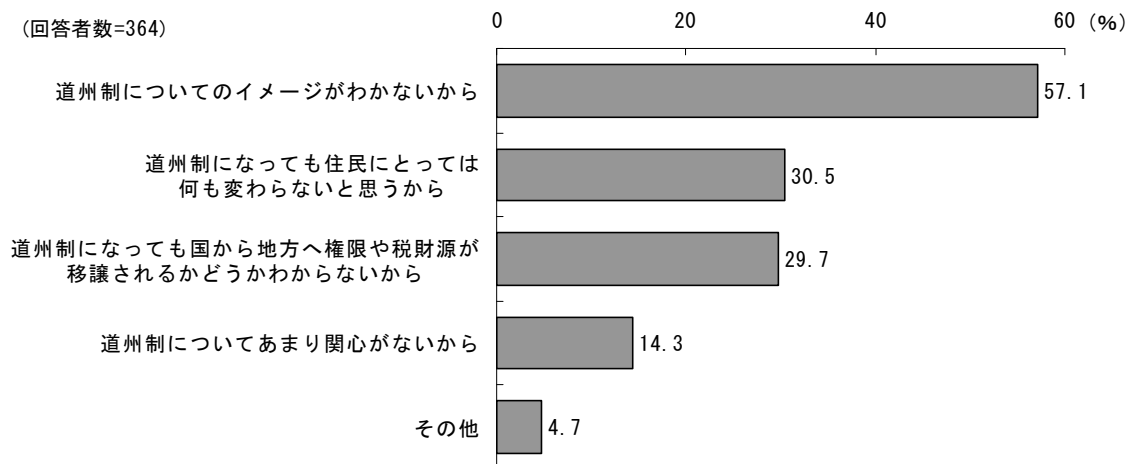
問 18 付問 3 (問 18 で「5 どちらともいえない」と回答された方におたずねします。) どちらともいえないとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

[回答者数=364]

| | |
|---|-------|
| 1 道州制についてのイメージがわからないから | 57.1% |
| 2 道州制になっても住民にとっては何も変わらないと思うから | 30.5% |
| 3 道州制になっても国から地方へ権限や税財源が移譲されるかどうか わからないから | 29.7% |
| 4 道州制についてあまり関心がないから | 14.3% |
| 5 その他 | 4.7% |

道州制について、どちらともいえないと考える理由をみると、「道州制についてのイメージがわからないから」が 57.1%と6割近くを占め最も高く、次いで、「道州制になっても住民にとっては何も変わらないと思うから」が 30.5%、「道州制になっても国から地方へ権限や税財源が移譲されるかどうかわからないから」が 29.7%などとなっている。

〈 道州制について、どちらともいえないと考える理由 〉



性別にみると、男女とも「道州制についてのイメージがわからないから」が最も高く、次いで、『男性』は「道州制になっても国から地方へ権限や税財源が移譲されるかどうかかわからないから」、『女性』は「道州制になっても住民にとっては何も変わらないと思うから」となっている。

年齢別にみると、『20～29歳』から『60～69歳』では「道州制についてのイメージがわからないから」が最も高く、『20～29歳』は64.5%と、そのほかの年齢区分よりやや高い比率となっている。『70歳以上』は「道州制になっても国から地方へ権限や税財源が移譲されるかどうかかわからないから」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「道州制になっても住民にとっては何も変わらないと思うから」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』、『無職』では「道州制についてのイメージがわからないから」が最も高い比率となっている。

圏域別にみると、『高松地域』、『東讃地域』、『中讃地域』、『西讃地域』では「道州制についてのイメージがわからないから」が最も高く、なかでも『西讃地域』は70.0%と、そのほかの圏域より高い比率となっている。『小豆地域』は「道州制についてのイメージがわからないから」と「道州制になっても国から地方へ権限や税財源が移譲されるかどうかかわからないから」が同率で最も高くなっている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別 道州制について、どちらともいえないと考える理由 〉

(単位：%)

| 区 分 | 回答者数 (人) | か の 道 な イ 州 制 に ら ジ つ が い わ て | い は も 道 と 何 住 州 に に 変 に な ら な っ て | か う 移 権 も 道 ら か 譲 限 国 州 に ら な か 源 方 っ て | い あ 道 か ま 州 ら り 制 関 に 心 つ が い な て | そ の 他 |
|-----------------|-------------|---|---|--|---|-------------|
| 合 計 | 364 | 57.1 | 30.5 | 29.7 | 14.3 | 4.7 |
| 性 別 | | | | | | |
| 男性 | 123 | 50.4 | 31.7 | 34.1 | 16.3 | 5.7 |
| 女性 | 236 | 60.6 | 30.1 | 28.0 | 13.6 | 3.8 |
| 年 齢 別 | | | | | | |
| 20～29歳 | 31 | 64.5 | 16.1 | 19.4 | 25.8 | 0.0 |
| 30～39歳 | 49 | 59.2 | 28.6 | 28.6 | 14.3 | 6.1 |
| 40～49歳 | 68 | 58.8 | 27.9 | 26.5 | 8.8 | 4.4 |
| 50～59歳 | 68 | 60.3 | 19.1 | 30.9 | 20.6 | 8.8 |
| 60～69歳 | 92 | 62.0 | 38.0 | 25.0 | 14.1 | 3.3 |
| 70歳以上 | 51 | 33.3 | 47.1 | 51.0 | 7.8 | 3.9 |
| 職 業 別 | | | | | | |
| 農林漁業 | 14 | 35.7 | 42.9 | 28.6 | 21.4 | 21.4 |
| 商工業、サービス業、自由業など | 44 | 61.4 | 31.8 | 22.7 | 13.6 | 2.3 |
| 会社、商店、官公庁などに勤務 | 147 | 58.5 | 27.9 | 30.6 | 14.3 | 4.1 |
| 主婦・主夫 | 98 | 59.2 | 30.6 | 28.6 | 16.3 | 4.1 |
| 無職 | 49 | 51.0 | 32.7 | 38.8 | 12.2 | 6.1 |
| 圏 域 別 | | | | | | |
| 高松地域 | 166 | 56.0 | 33.7 | 33.7 | 7.8 | 7.8 |
| 東讃地域 | 35 | 42.9 | 40.0 | 25.7 | 31.4 | 5.7 |
| 小豆地域 | 14 | 42.9 | 35.7 | 42.9 | 14.3 | 7.1 |
| 中讃地域 | 99 | 59.6 | 24.2 | 28.3 | 15.2 | 1.0 |
| 西讃地域 | 50 | 70.0 | 24.0 | 18.0 | 22.0 | 0.0 |

(8) 道州制になる場合に、よいと思う区域割り

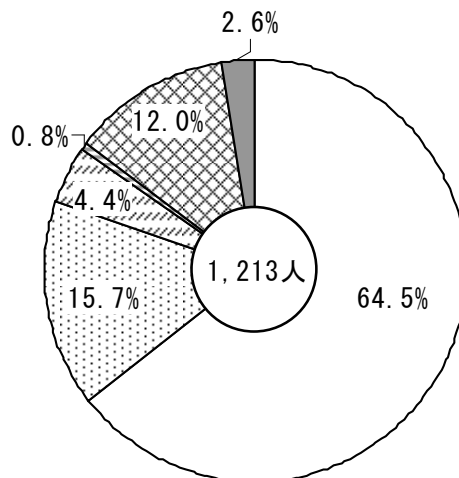
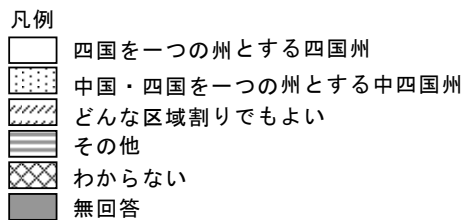
問 19 道州の区域割りについておたずねします。もし道州制になるとすれば、現在の香川県を含む州はどのような区域がよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

〔回答者数=1,213〕

| | | |
|---|-------------------|-------|
| 1 | 四国を一つの州とする四国州 | 64.5% |
| 2 | 中国・四国を一つの州とする中四国州 | 15.7% |
| 3 | どんな区域割りでもよい | 4.4% |
| 4 | その他 | 0.8% |
| 5 | わからない | 12.0% |
| | (無回答) | 2.6% |

道州制になる場合に、よいと思う区域割りについては、「四国を一つの州とする四国州」が64.5%と6割を超え最も高く、「中国・四国を一つの州とする中四国州」が15.7%、「わからない」が12.0%、「どんな区域割りでもよい」が4.4%などとなっている。

〈 道州制になる場合に、よいと思う区域割り 〉



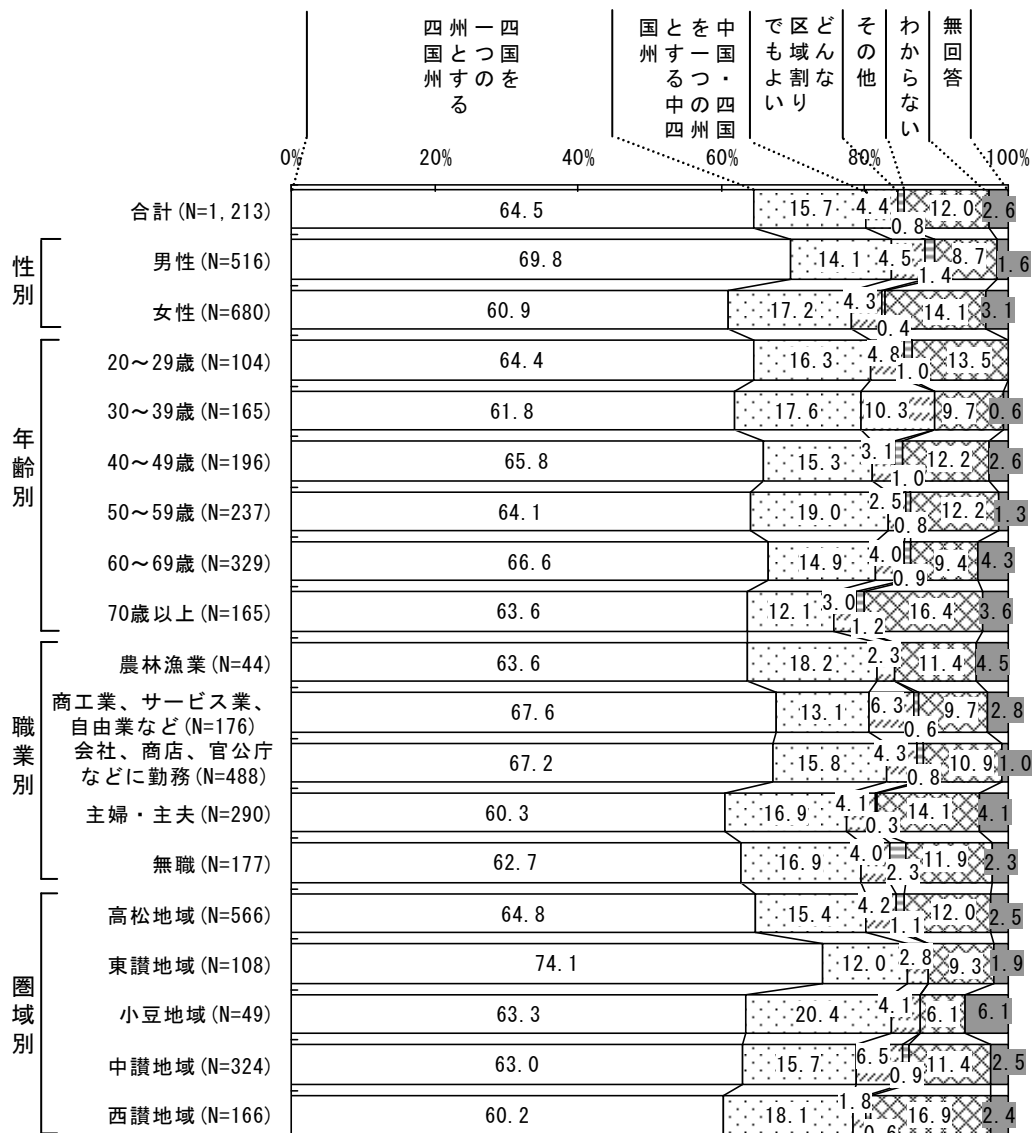
性別にみると、男女とも「四国を一つの州とする四国州」が最も高く、『男性』は69.8%、『女性』は60.9%となっている。

年齢別にみると、いずれも「四国を一つの州とする四国州」が6割台となっている。「どんな区域割りでもよい」については、『30～39歳』では10.3%と1割を超え、そのほかの年齢区分よりやや高くなっている。

職業別にみると、いずれも「四国を一つの州とする四国州」が6割台となっている。

圏域別にみると、どの圏域でも「四国を一つの州とする四国州」が最も高く、なかでも『東讃地域』は74.1%と7割を超え、そのほかの圏域より高くなっている。2番目に割合の高い「中国・四国を一つの州とする中四国州」については、『小豆地域』が20.4%と2割を超え、そのほかの圏域よりやや高い割合となっている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別 道州制になる場合に、よいと思う区域割り 〉



4. 県政の重要度と満足度について

(1) 安全で快適な生活空間（重要度）

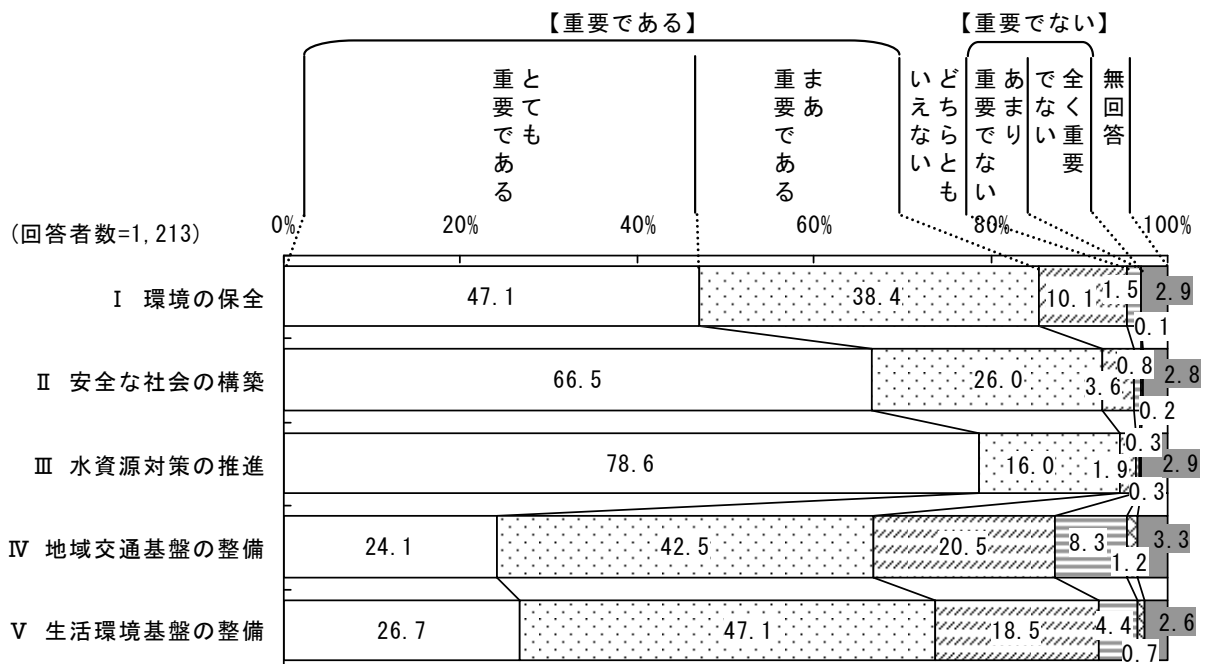
問 20 「安全で快適な生活空間」についておたずねします。Ⅰ～Ⅴの各施策についてあなたの<重要度>を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 重要度 | | | | | |
|--------------|-------------------|------------------|--------------------|-------------------|------------------|---------|
| | ① とても 重要である | ② まあ 重要である | ③ どちらとも いえない | ④ あまり 重要でない | ⑤ 全く 重要でない | 無 回答 |
| [回答者数=1,213] | | | | | | |
| Ⅰ 環境の保全 | 47.1 | 38.4 | 10.1 | 1.5 | 0.1 | 2.9 |
| Ⅱ 安全な社会の構築 | 66.5 | 26.0 | 3.6 | 0.8 | 0.2 | 2.8 |
| Ⅲ 水資源対策の推進 | 78.6 | 16.0 | 1.9 | 0.3 | 0.3 | 2.9 |
| Ⅳ 地域交通基盤の整備 | 24.1 | 42.5 | 20.5 | 8.3 | 1.2 | 3.3 |
| Ⅴ 生活環境基盤の整備 | 26.7 | 47.1 | 18.5 | 4.4 | 0.7 | 2.6 |

「安全で快適な生活空間」について重要度をみると、どの施策項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】という人が6割を超えており、なかでも『水資源対策の推進』は94.6%、『安全な社会の構築』は92.5%と9割を超え、『環境の保全』についても85.5%と8割を超えている。

〈 安全で快適な生活空間(重要度) 〉



(2) 安全で快適な生活空間 (満足度)

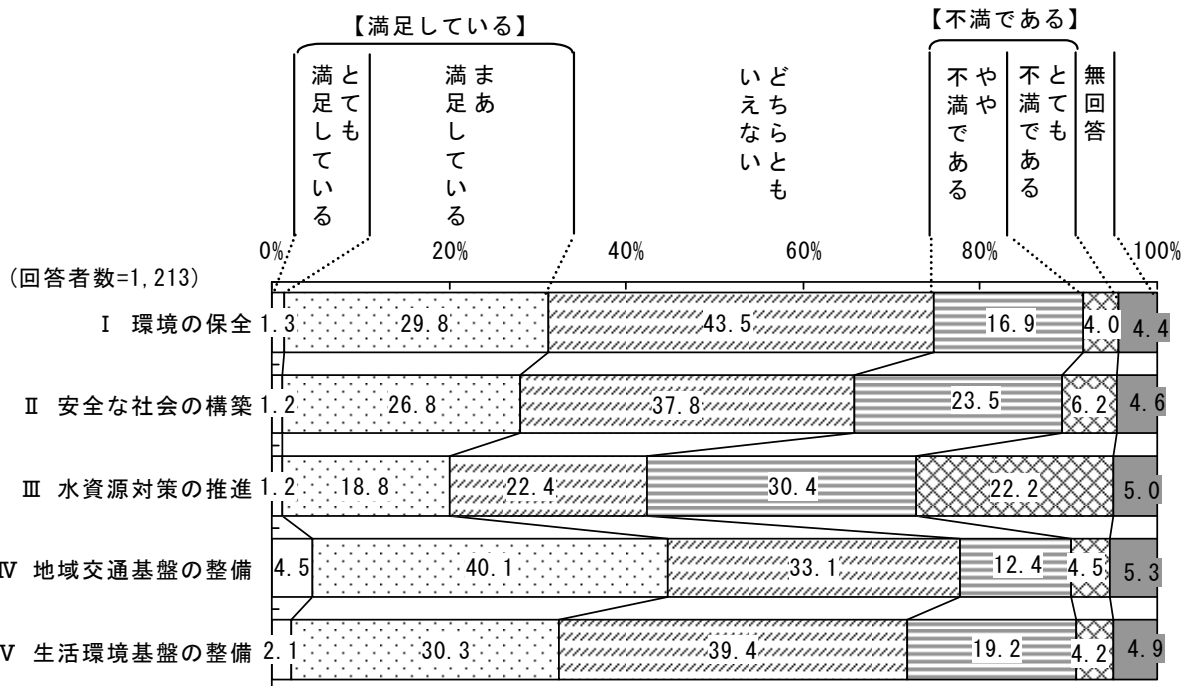
問 20 「安全で快適な生活空間」についておたずねします。Ⅰ～Ⅴの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 満足度 | | | | | |
|--------------|------------|-----------|------------|----------|-----------|-----|
| | ①とても満足している | ②まあ満足している | ③どちらともいえない | ④やや不満である | ⑤とても不満である | 無回答 |
| 〔回答者数=1,213〕 | | | | | | |
| Ⅰ 環境の保全 | 1.3 | 29.8 | 43.5 | 16.9 | 4.0 | 4.4 |
| Ⅱ 安全な社会の構築 | 1.2 | 26.8 | 37.8 | 23.5 | 6.2 | 4.6 |
| Ⅲ 水資源対策の推進 | 1.2 | 18.8 | 22.4 | 30.4 | 22.2 | 5.0 |
| Ⅳ 地域交通基盤の整備 | 4.5 | 40.1 | 33.1 | 12.4 | 4.5 | 5.3 |
| Ⅴ 生活環境基盤の整備 | 2.1 | 30.3 | 39.4 | 19.2 | 4.2 | 4.9 |

「安全で快適な生活空間」について満足度をみると、『環境の保全』、『地域交通基盤の整備』、『生活環境基盤の整備』については、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】という人が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。『安全な社会の構築』、『水資源対策の推進』については、【不満である】が【満足している】を上回り、なかでも『水資源対策の推進』では【不満である】が52.6%と、他の項目に比べ高くなっている。

〈安全で快適な生活空間(満足度)〉



(3) ささえあい、安心して暮らせる社会（重要度）

問 21 「ささえあい、安心して暮らせる社会」についておたずねします。Ⅰ～Ⅷの各施策についてあなたの〈重要度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

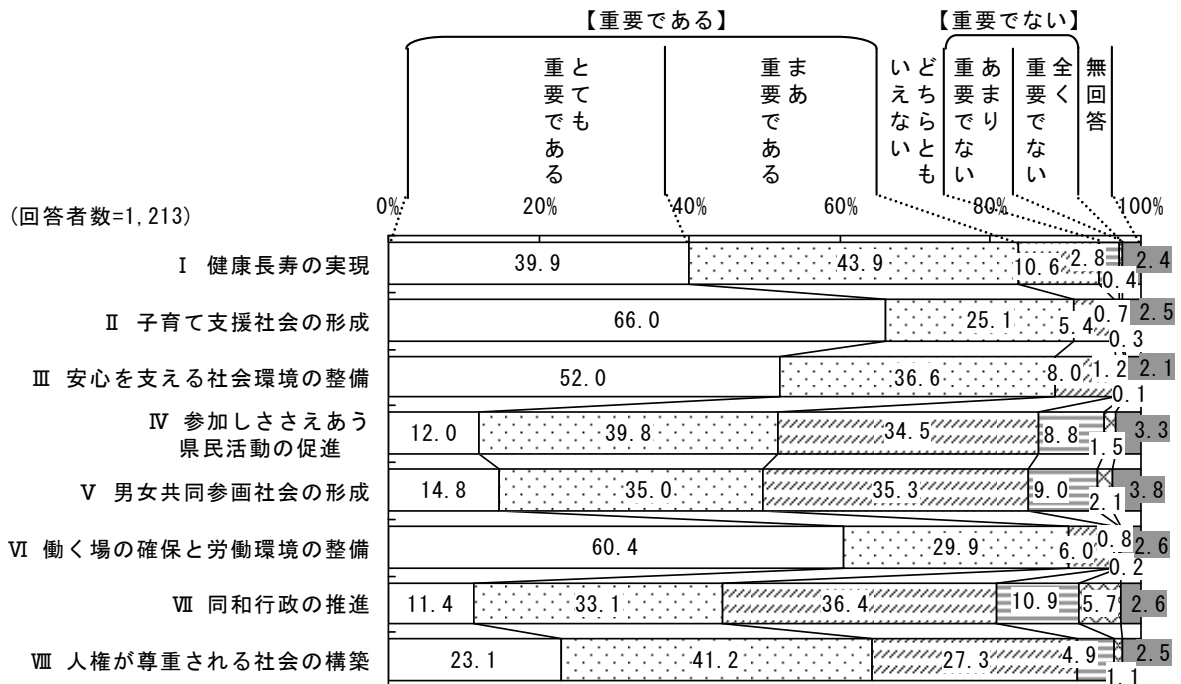
(単位：%)

| | 重要度 | | | | | |
|------------------|-----------|----------|------------|-----------|----------|-----|
| | ①とても重要である | ②まあ重要である | ③どちらともいえない | ④あまり重要でない | ⑤全く重要でない | 無回答 |
| Ⅰ 健康長寿の実現 | 39.9 | 43.9 | 10.6 | 2.8 | 0.4 | 2.4 |
| Ⅱ 子育て支援社会の形成 | 66.0 | 25.1 | 5.4 | 0.7 | 0.3 | 2.5 |
| Ⅲ 安心を支える社会環境の整備 | 52.0 | 36.6 | 8.0 | 1.2 | 0.1 | 2.1 |
| Ⅳ 参加しさえあう県民活動の促進 | 12.0 | 39.8 | 34.5 | 8.8 | 1.5 | 3.3 |
| Ⅴ 男女共同参画社会の形成 | 14.8 | 35.0 | 35.3 | 9.0 | 2.1 | 3.8 |
| Ⅵ 働く場の確保と労働環境の整備 | 60.4 | 29.9 | 6.0 | 0.8 | 0.2 | 2.6 |
| Ⅶ 同和行政の推進 | 11.4 | 33.1 | 36.4 | 10.9 | 5.7 | 2.6 |
| Ⅷ 人権が尊重される社会の構築 | 23.1 | 41.2 | 27.3 | 4.9 | 1.1 | 2.5 |

[回答者数=1,213]

「ささえあい、安心して暮らせる社会」について重要度をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】という人が半数を超えており、なかでも『子育て支援社会の形成』は91.1%、『働く場の確保と労働環境の整備』は90.3%、『安心を支える社会環境の整備』は88.6%、『健康長寿の実現』は83.8%と8割以上を占めている。

〈 ささえあい、安心して暮らせる社会(重要度) 〉



(4) ささえあい、安心して暮らせる社会（満足度）

問 21 「ささえあい、安心して暮らせる社会」についておたずねします。Ⅰ～Ⅷの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

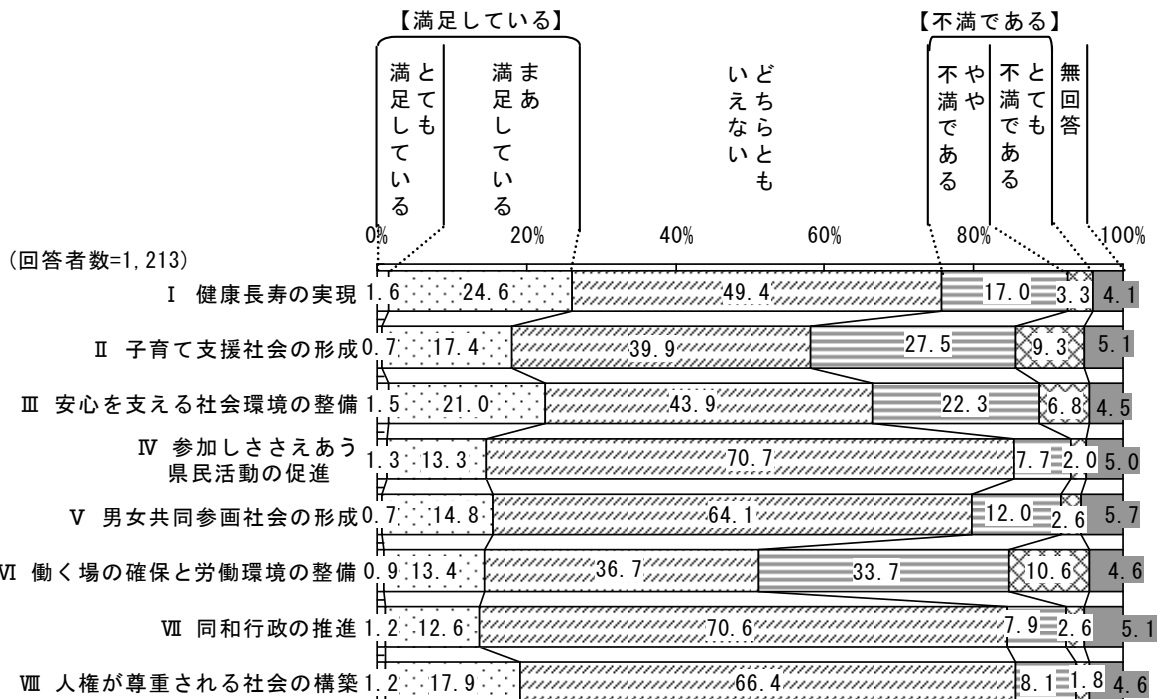
(単位：%)

| | 満足度 | | | | | |
|------------------|------------|-----------|------------|----------|-----------|-----|
| | ①とても満足している | ②まあ満足している | ③どちらともいえない | ④やや不満である | ⑤とても不満である | 無回答 |
| Ⅰ 健康長寿の実現 | 1.6 | 24.6 | 49.4 | 17.0 | 3.3 | 4.1 |
| Ⅱ 子育て支援社会の形成 | 0.7 | 17.4 | 39.9 | 27.5 | 9.3 | 5.1 |
| Ⅲ 安心を支える社会環境の整備 | 1.5 | 21.0 | 43.9 | 22.3 | 6.8 | 4.5 |
| Ⅳ 参加しさえあう県民活動の促進 | 1.3 | 13.3 | 70.7 | 7.7 | 2.0 | 5.0 |
| Ⅴ 男女共同参画社会の形成 | 0.7 | 14.8 | 64.1 | 12.0 | 2.6 | 5.7 |
| Ⅵ 働く場の確保と労働環境の整備 | 0.9 | 13.4 | 36.7 | 33.7 | 10.6 | 4.6 |
| Ⅶ 同和行政の推進 | 1.2 | 12.6 | 70.6 | 7.9 | 2.6 | 5.1 |
| Ⅷ 人権が尊重される社会の構築 | 1.2 | 17.9 | 66.4 | 8.1 | 1.8 | 4.6 |

[回答者数=1,213]

「ささえあい、安心して暮らせる社会」について満足度をみると、『働く場の確保と労働環境の整備』、『子育て支援社会の形成』、『安心を支える社会環境の整備』については、【不満である】という人が、【満足している】という人を上回っている。なかでも『働く場の確保と労働環境の整備』では【不満である】が44.3%、『子育て支援社会の形成』では【不満である】が36.8%と高くなっている。

〈 ささえあい、安心して暮らせる社会(満足度) 〉



(5) きらめく個性、豊かな心(重要度)

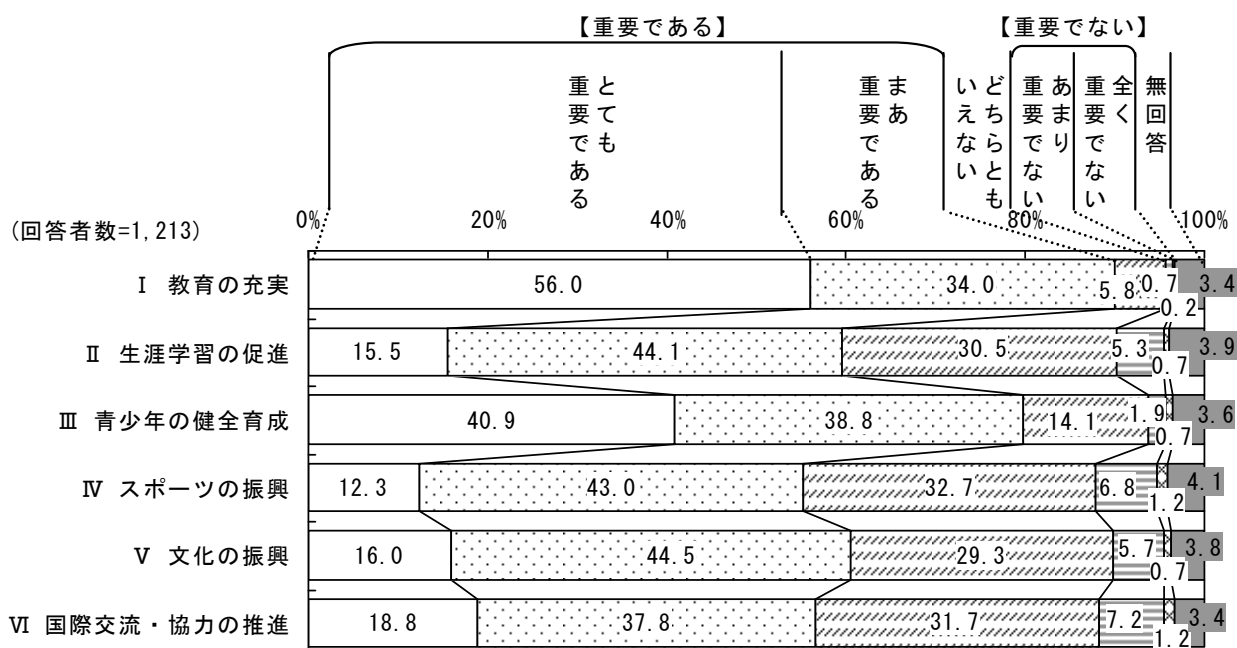
問 22 「きらめく個性、豊かな心」についておたずねします。I～VIの各施策についてあなたの<重要度>を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 重要度 | | | | | |
|---------------|-----------|----------|------------|-----------|----------|-----|
| | ①とても重要である | ②まあ重要である | ③どちらともいえない | ④あまり重要でない | ⑤全く重要でない | 無回答 |
| [回答者数=1,213] | | | | | | |
| I 教育の充実 | 56.0 | 34.0 | 5.8 | 0.7 | 0.2 | 3.4 |
| II 生涯学習の促進 | 15.5 | 44.1 | 30.5 | 5.3 | 0.7 | 3.9 |
| III 青少年の健全育成 | 40.9 | 38.8 | 14.1 | 1.9 | 0.7 | 3.6 |
| IV スポーツの振興 | 12.3 | 43.0 | 32.7 | 6.8 | 1.2 | 4.1 |
| V 文化の振興 | 16.0 | 44.5 | 29.3 | 5.7 | 0.7 | 3.8 |
| VI 国際交流・協力の推進 | 18.8 | 37.8 | 31.7 | 7.2 | 1.2 | 3.4 |

「きらめく個性、豊かな心」について重要度をみると、どの施策項目でも【重要である】という人が半数を超えており、なかでも『教育の充実』は90.0%、『青少年の健全育成』は79.7%と、他の施策項目に比べ高い割合となっている。

< きらめく個性、豊かな心(重要度) >



(6) きらめく個性、豊かな心(満足度)

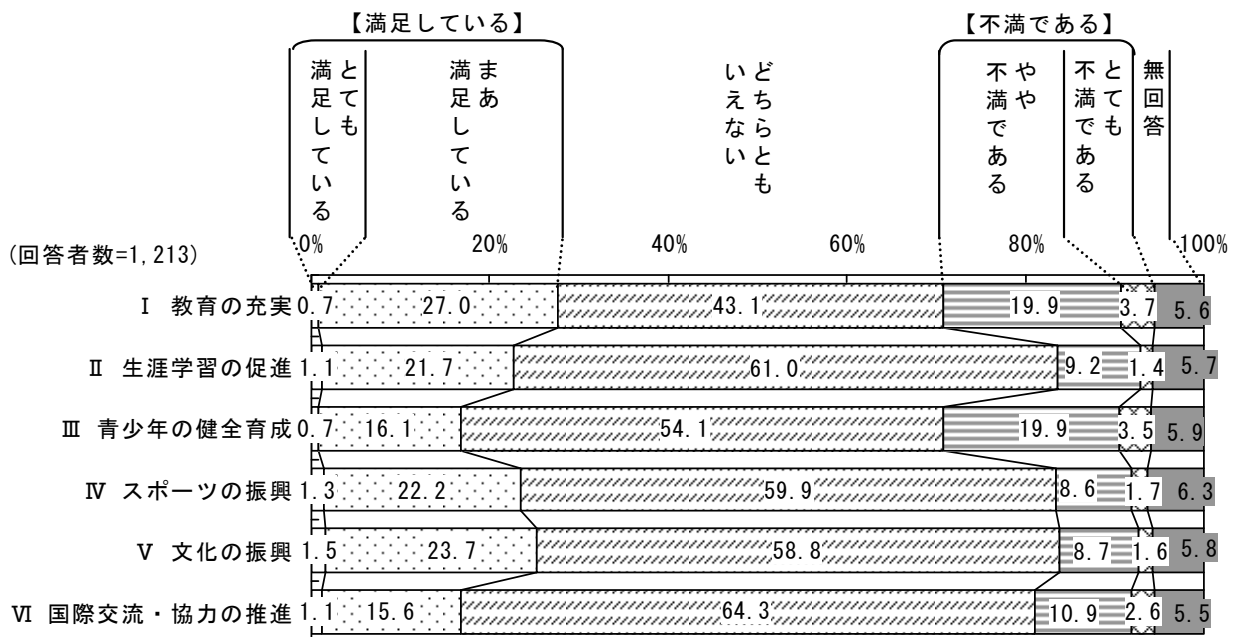
問 22 「きらめく個性、豊かな心」についておたずねします。I～VIの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 満足度 | | | | | |
|---------------|----------------|---------------|----------------|--------------|---------------|-----|
| | ① とても満足している | ② まあ満足している | ③ どちらともいえない | ④ やや不満である | ⑤ とても不満である | 無回答 |
| [回答者数=1,213] | | | | | | |
| I 教育の充実 | 0.7 | 27.0 | 43.1 | 19.9 | 3.7 | 5.6 |
| II 生涯学習の促進 | 1.1 | 21.7 | 61.0 | 9.2 | 1.4 | 5.7 |
| III 青少年の健全育成 | 0.7 | 16.1 | 54.1 | 19.9 | 3.5 | 5.9 |
| IV スポーツの振興 | 1.3 | 22.2 | 59.9 | 8.6 | 1.7 | 6.3 |
| V 文化の振興 | 1.5 | 23.7 | 58.8 | 8.7 | 1.6 | 5.8 |
| VI 国際交流・協力の推進 | 1.1 | 15.6 | 64.3 | 10.9 | 2.6 | 5.5 |

「きらめく個性、豊かな心」について満足度をみると、『青少年の健全育成』以外の施策項目については、【満足している】という人が【不満である】という人を上回っている。また、『教育の充実』、『青少年の健全育成』については、【不満である】という人が2割を超えている。

〈 きらめく個性、豊かな心(満足度) 〉



(7) 創造性と活力あふれる地域 (重要度)

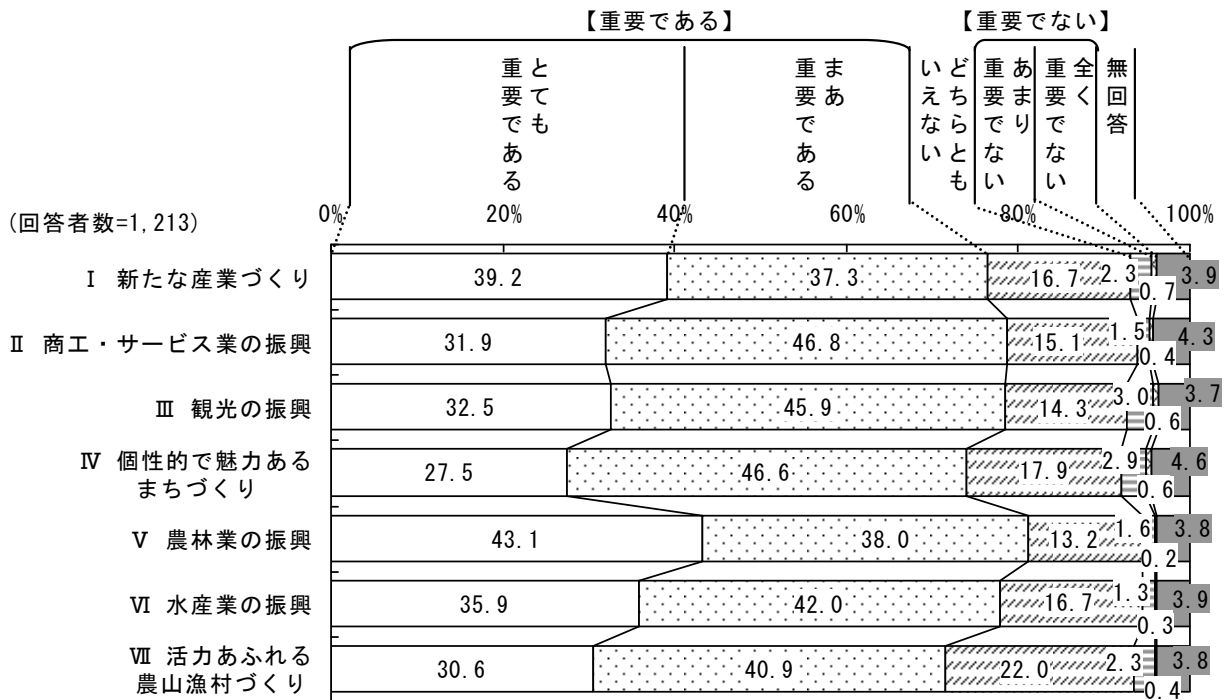
問 23 「創造性と活力あふれる地域」についておたずねします。Ⅰ～Ⅶの各施策についてあなたの〈重要度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 重要度 | | | | | |
|-----------------|-------------------|------------------|--------------------|-------------------|------------------|---------|
| | ① とても 重要である | ② まあ 重要である | ③ どちらとも いえない | ④ あまり 重要でない | ⑤ 全く 重要でない | 無 回答 |
| [回答者数=1,213] | | | | | | |
| Ⅰ 新たな産業づくり | 39.2 | 37.3 | 16.7 | 2.3 | 0.7 | 3.9 |
| Ⅱ 商工・サービス業の振興 | 31.9 | 46.8 | 15.1 | 1.5 | 0.4 | 4.3 |
| Ⅲ 観光の振興 | 32.5 | 45.9 | 14.3 | 3.0 | 0.6 | 3.7 |
| Ⅳ 个性的で魅力あるまちづくり | 27.5 | 46.6 | 17.9 | 2.9 | 0.6 | 4.6 |
| Ⅴ 農林業の振興 | 43.1 | 38.0 | 13.2 | 1.6 | 0.2 | 3.8 |
| Ⅵ 水産業の振興 | 35.9 | 42.0 | 16.7 | 1.3 | 0.3 | 3.9 |
| Ⅶ 活力あふれる農山漁村づくり | 30.6 | 40.9 | 22.0 | 2.3 | 0.4 | 3.8 |

「創造性と活力あふれる地域」について重要度をみると、どの施策項目でも【重要である】という人が7割を超えており、なかでも『農林業の振興』については、【重要である】が81.1%と高くなっている。

〈 創造性と活力あふれる地域(重要度) 〉



(8) 創造性と活力あふれる地域 (満足度)

問 23 「創造性と活力あふれる地域」についておたずねします。Ⅰ～Ⅶの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

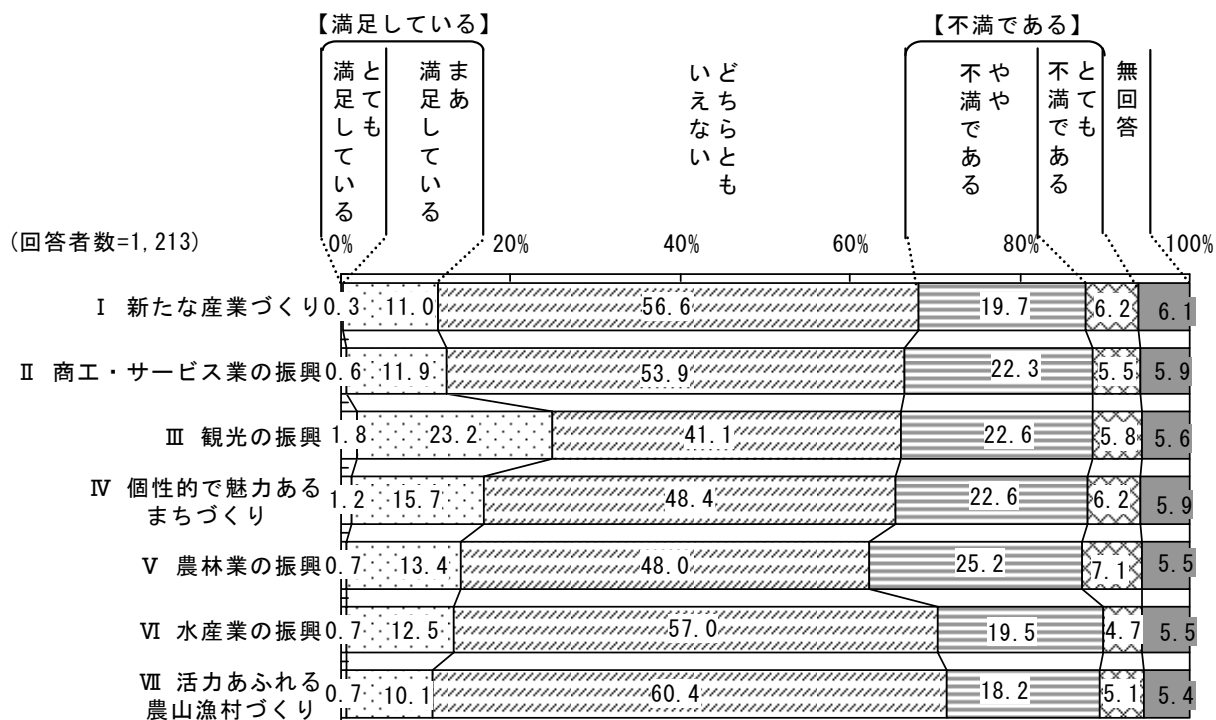
(単位：%)

| | 満足度 | | | | | |
|-----------------|------------|-----------|------------|----------|-----------|-----|
| | ①とても満足している | ②まあ満足している | ③どちらともいえない | ④やや不満である | ⑤とても不満である | 無回答 |
| Ⅰ 新たな産業づくり | 0.3 | 11.0 | 56.6 | 19.7 | 6.2 | 6.1 |
| Ⅱ 商工・サービス業の振興 | 0.6 | 11.9 | 53.9 | 22.3 | 5.5 | 5.9 |
| Ⅲ 観光の振興 | 1.8 | 23.2 | 41.1 | 22.6 | 5.8 | 5.6 |
| Ⅳ 個性的で魅力あるまちづくり | 1.2 | 15.7 | 48.4 | 22.6 | 6.2 | 5.9 |
| Ⅴ 農林業の振興 | 0.7 | 13.4 | 48.0 | 25.2 | 7.1 | 5.5 |
| Ⅵ 水産業の振興 | 0.7 | 12.5 | 57.0 | 19.5 | 4.7 | 5.5 |
| Ⅶ 活力あふれる農山漁村づくり | 0.7 | 10.1 | 60.4 | 18.2 | 5.1 | 5.4 |

〔回答者数=1,213〕

「創造性と活力あふれる地域」について満足度をみると、すべての施策項目で【不満である】という人が【満足している】という人を上回っている。なかでも『農林業の振興』では【不満である】が32.3%と高くなっている。

〈 創造性と活力あふれる地域(満足度) 〉



(9) 新時代の基盤 (重要度)

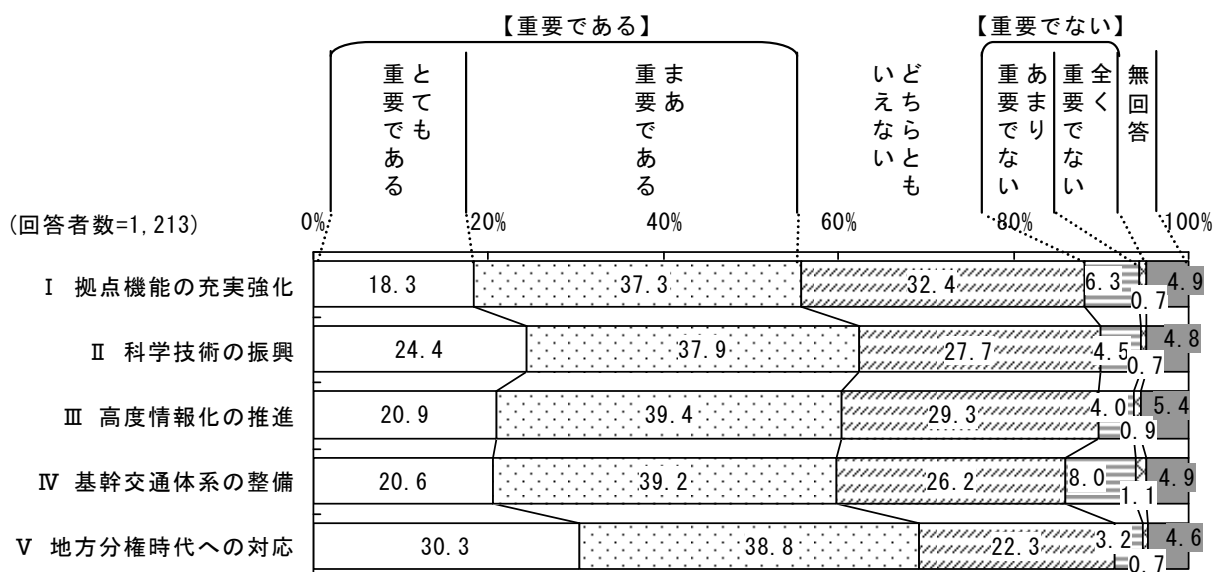
問 24 「新時代の基盤」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの〈重要度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 重要度 | | | | | |
|--------------|-------------------|------------------|------------------------|-----------------------|----------------------|-------------|
| | ① とても 重要である | ② まあ 重要である | ③ どちら ともい えない | ④ あまり 重要で ない | ⑤ 全く 重要で ない | 無 回 答 |
| [回答者数=1,213] | | | | | | |
| I 拠点機能の充実強化 | 18.3 | 37.3 | 32.4 | 6.3 | 0.7 | 4.9 |
| II 科学技術の振興 | 24.4 | 37.9 | 27.7 | 4.5 | 0.7 | 4.8 |
| III 高度情報化の推進 | 20.9 | 39.4 | 29.3 | 4.0 | 0.9 | 5.4 |
| IV 基幹交通体系の整備 | 20.6 | 39.2 | 26.2 | 8.0 | 1.1 | 4.9 |
| V 地方分権時代への対応 | 30.3 | 38.8 | 22.3 | 3.2 | 0.7 | 4.6 |

「新時代の基盤」について重要度をみると、どの施策項目でも【重要である】という人が半数を超えており、『科学技術の振興』、『高度情報化の推進』及び『地方分権時代への対応』については6割を超えている。

〈 新時代の基盤(重要度) 〉



(10) 新時代の基盤（満足度）

問 24 「新時代の基盤」についておたずねします。Ⅰ～Ⅴの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

| | 満足度 | | | | | |
|--------------|----------------|---------------|----------------|--------------|---------------|-----|
| | ① とても満足している | ② まあ満足している | ③ どちらともいえない | ④ やや不満である | ⑤ とても不満である | 無回答 |
| 〔回答者数=1,213〕 | | | | | | |
| Ⅰ 拠点機能の充実強化 | 0.7 | 14.3 | 65.3 | 10.9 | 1.9 | 6.9 |
| Ⅱ 科学技術の振興 | 0.7 | 10.9 | 64.9 | 14.1 | 2.8 | 6.7 |
| Ⅲ 高度情報化の推進 | 1.1 | 13.5 | 63.1 | 12.9 | 2.1 | 7.3 |
| Ⅳ 基幹交通体系の整備 | 2.3 | 23.5 | 48.3 | 15.2 | 3.9 | 6.8 |
| Ⅴ 地方分権時代への対応 | 1.1 | 10.4 | 61.3 | 16.7 | 4.0 | 6.5 |

「新時代の基盤」について満足度をみると、『拠点機能の充実強化』と『基幹交通体系の整備』については、【満足している】という人が、【不満である】という人を上回っている。『科学技術の振興』、『高度情報化の推進』及び『地方分権時代への対応』については、【不満である】という人が【満足している】という人を上回っている。

〈 新時代の基盤（満足度） 〉

